

酒吞童子山地域の 陸 生 昆 虫

この地域を含む津江山系は県内ではくじゅう山系、祖母・傾山系、由布・鶴見山系に次ぐ標高を持ち、その規模は祖母・傾山系に次いで大きいものです。しかし、スギの植林が進み、県内で最初に保護が叫ばれた尾根のブナ・モミ・ツガ林や山腹のアカガシ・ウラジロガシ林は姿を消してしまいました。

この地域の山腹より上部は落葉広葉樹林帯に属し、昆虫類も当然落葉広葉樹林帯にすむ種が多いはずですが、その種数はくじゅう山系や祖母・傾山系などに比べて著しく少なく、むしろ低山地の常緑広葉樹林帯に生息する一般的な種が目立っています。それは以前に茂っていた落葉広葉樹林が丸裸にされ、昆虫類の食物と生息環境が一時的に無くなってしまい、その後に特定の昆虫しか食べない杉が植えられたからと考えられます。



笹野川上流谷部の自然林



フキバツタ



スキバホウジャク

今見られる落葉広葉樹林帯の昆虫は、食餌植物の強さで生き残ったものや、足場が悪く切り残された谷部の植物などを寄りどころとするものであり、これらの種は今後、減少はあっても、増加することは容易でないと思われます。

昆虫をとおしてこの地域の自然を眺めると、本来の落葉広葉樹林に比べて格段に生物相が希薄であり、全体に魅力に欠ける状態と言わざるを得ません。この現象が人為によっていることは大いに考えなければならないことと思います。



シロスジナガハナアブ



ニセシラホシカミキリ



ヨツスジハナカミキリ



シマサシガメ



マイマイカブリ



ヒメキマダラヒカゲ



越冬したヨコズナサジガメ幼虫



クロカミキリ



ミツバチの飼育風景